

# 白門経友会

## 定期総会を終えて

毎年六月初旬に開催してきている白門経友会定期総会は今年で二十三回目となり、次のようなプログラムで実施し審議事項は滞りなく了承されました。

講演会では、片桐稔晴教授により日本の名城について、その構造、そのことの意味や社会的背景を、多数の画像を駆使して様々な視点から分かり易く解説していただきました。



日時 平成二十五年六月一日  
(土) 午後二時開会  
場所 中央大学多摩キャンパス  
七号館七一〇三教室  
プログラム  
(一) 定期総会 午後二時～二時三十分  
①平成二十四年度事業報告・決算報告  
②平成二十五年度事業計画・予算案  
③その他  
(二) 記念講演会  
「日本の名城」その見方、楽しみ方  
講師・片桐稔晴教授  
総会では、松丸会長の開会挨拶に続き、風間幹事長より昨年度の事業報告・決算報告ならびに今年度の事業計画・事業予算について説明があり異議なく承認されました。

会員各位におかれましてはご多忙とは存じますが、幹事会等へのご参加とともに一層のご協力をお願いする次第です。(副幹事長佐藤文博)

## 八島先生を偲んで

経済学部教授八島健司(やしまけんじ)先生が、八月四日午後三時に逝去されました。享年七十歳。

八島先生にはお酒が進むと必ずされる話がありました。「酔っ払つたから言うんじゃないけど…」という枕詞と共に始まるその話は、御茶ノ水のやり方ではなく多摩のやり方でやらなくてはダメだという体育授業に対するご自身の持論でした。中大出身の八島先生も学生時代に御茶ノ水の体育を経験してこられたからこそ内容で、スポーツにとってあまり相応しくない環境で、大人数を相手に、ともすれば単に授業を「熟すだけ」というやり方は、多摩移転とともに脱却しなければいけないというものでした。

授業に対する情熱、そして、中央大學を対する強かつた「中大体育人」八島先生のまだ語り足りない思いは、亡くなるという形で中大を去られた事によつて、我々に

映つていたのかも知れません。目前に迫つていた定年を前に、授業に対する情熱、そして、中央大學を対する強かつた「中大体育人」八島先生のまだ語り足りない思いは、亡くなるという形で中大を去られた事によつて、我々に

つづつは言葉以上の重さで伝わつてゐるようです。

ご冥福をお祈りいたします。

保健体育研究所 高村直成

## キャリアデザインを通して 学んだこと(1)

経済学部二年 川田雄輝



キャリアとは英単語“career”から「経歴・職歴」という意味である。そのキャリアを一体どの様に形成していくのか、言い換えると自分の未来をどのようないくつか「意匠・形態」に仕上げていくか。中央大学入学という夢を現実に手に入れ、達成感に満ちた一年を過ごした。入学してから新しい環境、友達に恵まれ以前で体験を出来なかつたような満喫した大学生活を送っていたのである。反省と共に自分なりの大学生活の本業とは何か、を考えるようになつた。高校時代に目指していた一つの夢というのは大学進学であった。その結果、私はこの大学に入學する事が出来て成功を得ることが出来たと感じている。高校時代にこの目標があつたからこそ達成感を得られたと考え、私が大学二年生になつた頃に二年後に決まる

鳥居伸好教授担当の”キャリアデザイン”のもう一つの魅力は、学生自らが自分の姿に照らし合わせて考える機会を持つることだ。鳥居教授の「10の心得」から始まつた授業だが、特に「基本を大切に」「可能性思考」「あきらめない」というアドバイスはこれから的人生についても携えていたい心得だ。

「キャリアとは”偶然”や”運”に作られる側面を持つ」これはキャリアデザイン特別講師、株式会社ブレイフル取締役高田圭吾様の言葉で

である。私はこの言葉に対し励まされたが、その一方で不安を感じた。“偶然”や“運”という事は肯定的な意味でも、否定的な内容としても受け取れるからである。しかし、この授業の大きな魅力の一つは、毎回の授業で各界の一線でご活躍されているゲスト講師の話を伺える事である。社会経験の乏しい私にとって大いに参考になることばかりであつた。キャリアデザインの授業へお越し下さるのは各業界起業家、観光ジャーナリスト、不動産会社取締役、政府専用機担当、日本銀行役員など素晴らしい方々ばかり。一つ一つの社会での生の話を聞く事はとても刺激的であつた。

鳥居伸好教授担当の”キャリアデザイン”のもう一つの魅力は、学生自らが自分の姿に照らし合わせて考える機会を持つことだ。鳥居教授の「10の心得」から始まつた授業だが、特に「基本を大切に」「可能性思考」「あきらめない」というアドバイスはこれから的人生についても携えていたい心得だ。

「キャリアとは”偶然”や”運”に作られる側面を持つ」これはキャリアデザイン特別講師、株式会社ブレイフル取締役高田圭吾様の言葉で

ある。私はこの言葉に対し励まされたが、その一方で不安を感じた。“偶然”や“運”という事は肯定的な意味でも、否定的な内容としても受け取れるからである。しかし、ここでも全てを運任せと考へてしまふかもしれないが、努力によつて運を引き寄せることが出来るのでは無いかと思つた。キャリアにおいては努力によつて必ずしも理想的な経歴を得られるわけではない。全てを運に任せてしまう事は二分の一、それ以下の確率で失敗するかもしれない。しかし、キャリアの方向性を自分の中に持ち、理想を捉えその目標に向かつて努力する事で道が開かれることは大きくなるであろう。高田圭吾様はこの言葉の後にこうとも述べた。「キャリアは直線的に作れるものではない」「やるべきことをしつかりやる人がうまくいく」直線的に作れるものではないというのは、目標に向かう段階で失敗もあるであろうが、やるべきことをしつかりやる人は最終的に良い結果を残す。といふ意味である。

キャリアデザイン講師陣に共通



## キャリアデザインを通して 学んだこと(2)

経済学部二年 中原佳那恵



キャリアデザインの授業ではさまざまな職業の方々が毎週中央大学にお越しいただき、一時間三十分という限られた時間の中でご自身の生い立ちや経験、今の職業に就くまでの過程を詳しくお話してくださいます。自分の興味のある職種のお話はもちろん、今まで聞いたこともない職種の方の話まで聞くことができました。その中でも私は、日本銀行・田嶋治久氏の講義内容が一番興味深かったです。

まず初めに日本銀行とはなにか。日本銀行法とともに日本銀行の組織について説明していただきました。今まで私は日本銀行についての漠然としたイメージしかもつていなかつたので、田嶋氏のお仕事内容を聞く前に日本銀行の存在定義について知ることができて良かったです。その定義とは一、日本銀行はわが

国唯一の「発券銀行」である。二、日本銀行券は法貨として無制限に通用できる。三、偽札を作ったり、日本銀行券の額面を書き換えたり、切つたりして変造した場合、罰せられる。偽札と知りながらそれを使用した場合も罰せられる。といったものです。日本銀行とは官公庁だと思われるがちですが、実は法人会社であります。そのうちの約55%を政府が出費しています。

私が特に興味をもつたのは、新しい経済政策についてです。日本銀行総裁が変わり、これから日本の経済にも少なからず影響はなることだと思います。長年つづく金融システムや決済システムについての知識を得て、経済効果について違った視点から見ることができます。また、特に印象深かったのは東日本大震災の時の日本銀行がとった対応についてです。私でしたら目の前にある問題を解消することだけばかりを考えてしまいますが、日本銀行は長期的にみた経済政策を行いました。それは例えば決済機能という短期的なものばかりではなく、景気下振れリスクへの対応や資金供給などといった長期的なものです。

他にも人材についてのお話もし

てくださいました。田嶋氏の考える日本銀行において必要とされる人材とは、一、パブリックな仕事に対する情熱と誇りを持てる人である。

二、知的好奇心を持つとともに、他人の意見に耳を傾ける柔軟性、バランス感覚を持つ人である。三、新たな課題に対し、常に挑戦し続ける気概と必要な施策を成し遂げていく実行力を持つ人である。ということでした。もちろん、日本銀行で働くには専門的な知識も必要だと思いますが、それよりもまずは人との成りが大事なのだと私は強く感じました。挑戦、実行力、情熱ややる気といったものは全ての職種に対して必要なものではないかと思いま

す。田嶋氏のお仕事について興味をもつたのはもちろんですが、日本国民であるからには知つておくべき日本銀行についての知識、また職業選びのポイントまでも知ることができて良かったです。

この授業で本当にさまざまな職種に触れることができました。この授業で学この授業で学んだことはこれから進路を考える際にわたしにとってとても役立つことと思いま

す。これらを踏まえ、今後の学習を進めていきたいと思います。

## ～総会時の写真～



## え、あの先生が

### シリーズ⑯

経済学部教授 只腰 親和



今年度から着任しました只腰親和です。イギリスの経済思想史を専門にしています。昨年度までは横浜市立大学に約三十年間、勤めておりました。申すまでもなくすでに若いという年齢ではありませんが、研究、教育を新たな環境でできることになり、新鮮な気持ちで日々を過ごせているように思います。横浜からの通勤で、交通機関は東横線・南武線・小田急線と乗り継いでいますが、これまでほとんど利用することのなかつた小田急線で通勤に便利な多摩急行を登戸から利用できるのを知ったこと、にもかかわらずこの急行がしばしば遅れたり、運休したりして時間に遅れないかと思いつひやひやすることがあるのは、私にとって一種の新鮮な経験のひとつに数えられます。

前任校は横浜のもつとも南の金

沢八景に位置していて海のすぐそばでしたが、中央大学は多摩丘陵にあり、研究室から丹沢(?)の山並みをたえず眺めることができます。両大学とも個性ある立地で、期せずして好一対の二つの自然環境を体験できたことにひそかな喜びを感じています。

大学の内部の事柄についてはまだ一年も経過していないのでよくわかつていませんが、やはり前任校とはその規模の面で本学は対照的なのでその面で気づく点はあります。学生数は横浜市立大学が一学年全体で七百人程度でしたが、本学は経済学部のみで一学年千人という数字から両大学の相違は想像がつくと思います。そのように規模の大きい本学の、私にとってすでに実感している現段階でのメリットは図書館です。全体の蔵書数は本学の方が約二倍だと思いますが、とくに私の専門にとつては、同じような分野の先任の先生方が集めてくださつた蔵書の恩恵をおおいに享受できるのではないかと期待しています。

一八一九世紀イギリスの、経済を主とする諸思想を専門にしている私にとって、本学が所蔵するヒューム・コレクションは、すこし誇張した

かつ自分本位な表現を許していただければまるで自分のために用意されたもののようにさえ思えます。図書館は私の研究室がある二号館に隣接していることもありますが、足を運ぶ機会はすでにこれまでの間けつして少なくないと(勝手に)思いこんでいます。これからも図書館の方々にはお世話をおかげすることになると 思います。

今後しばらくは、本学における仕事のうえで必要なことを学んでいくのが私にとって緊要事だと思いまが、新任者にとって必要な知識は存外、何か難しいことというよりも他の先生方には当たり前のことで自分が知らないといつたいわば日常的な事柄ではないかと思います。諸先生方にご教示を仰ぐのは当然として、もうひとつ補助手段としてゼミの学生諸君からそういう知識を習おうかと思っています。前任校で私のゼミは、「アダム・スマスと酒のゼミ」という噂があつたとか聞いています。確かにゼミの終了後にゼミ生を誘う機会が時にありました。本学においても公私を通じてゼミ生諸君と親しく語らいたいと思っています。

## 編集後記

昨年の福井教授に続いて、今年も現役教員の訃報を掲載することとなりました。長年中央大学経済学部で体育教育に尽力されてこられた八島教授のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

さて、ようやく白門経友会のHPが開設され、会報も今回よりインターネット上で公開することになります。これまでの会報に親しんでくれた皆さんにはご不便をおかけすることになりますが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。本会は、経済学部OB、学生、教職員の連帯の場となることを目指して活動してきました。このHPを手がかりにその活動の輪をさらに広げるために、新しい情報発信を模索してまいります。皆さんのご支援、ご協力を願います。

(常任幹事 濱岡 剛)

2013年11月1日 第52号

発行 白門経友会常任幹事会  
発行人 白門経友会編集委員会  
編集長 鈴木 秀男

〒192-0393  
東京都八王子市東中野742-1  
中央大学 経済学部内  
URL: [www.wg-keiyukai.com](http://www.wg-keiyukai.com)  
FAX: 042-674-3425